

2024.9.30

「弥富相生山線の折衷案」への補足意見

水・森・いのちを守るラブリーアース Japan 事務局
相生山の四季を歩く会 事務局代表 古川善嗣

1) なぜ計画に固執するのか。

「高度経済成長」も「列島改造」も遠い過去の話になりました。その頃の『都市計画道路』に今もなぜ執着するのか、私たちには理解できません。よく「道路ネットワーク」と言われますが、提示された『折衷案』では、そのような機能を果たす道路とはとても思えません。

当初計画通りに建設する条件が既に失われていることを認識し、であるなら計画を撤回することから仕切り直すべきではないでしょうか。

今回のような『道路』ならば、相生山緑地計画に沿った園路なり散策路なり整備用通路として改めて検討するものではないかと思いました。

2) 「折衷案」は不幸な産物。

そもそも「学術検証懇談会」を開催した意図、目的が充分に公に説明されないまま、そこで発せられた「折衷案」というワードがいつの間にか独り歩きし、今日更なる混乱を招いているように思えて仕方ありません。もしかして、市長のあるいは担当部署の何らかのはかりごとがあったのでしょうか。そうでなかつたとしたら、現実離れした夢色の幻想に、市長も行政も議員も取りつかれてしまったとしか言いようがありません。

「意見の対立」「道路建設と自然環境の整合」などという現実離れした現状認識からは何も生まれない、上手くいかないことを断言しておきたいと思います。

3) 利が皆無とは言わないが。

下山畠と久方を結んで道路が相生山緑地を貫通したなら、少しは便利になることもあるでしょう。ものごとの道理で、反面失うこともあります。

一部の道路を求める人たちが、もしかすると未だ気づいていないことを名古屋市は明らかにして理解を求めるべきだと思います。

例えば「通過交通」についての地元の困難を述べられた方に私の居住地での事例を、国道1号線の抜け道にしたり近隣工場へ搬出入したりの産業車用などが路側帯しかない通学路を往来する区域もある、と伝えた時それ以上の主張をひかえられたという経験があります。

4) 全市の眺めれば、市民から歓迎される課題は他にある。

危機管理、防災、教育、医療、高齢者対策。相生山の道路以上に今名古屋市が税金を投入しなければならない事業が、急がなければならぬ事業があるのではないか。

5) もっと臆病慎重であった方がいい。

ことしの夏は「異常」でした。もしかすると来年はもっと猛暑日が多くなるかもしれません。「異常気象」の要因が人間の経済活動に遠因を発するものなのか、そうではないのか、環境破壊にもっと敏感になるべきなのか、注視観察するにとどめて良いものなのか、さまざまな人によっていろいろ意見が分かれるところでもあります。

けれども、これまで是としてきたからこれからもこのままで良いと出来ない不確実な時代に私たちは生きています。私たちが立ち上げる事業について、もっと慎重であった方が良いと考えざるを得ません。

それが自然環境に影響を与えそうだと予測されるならより一層、臆病ととらえられるほど慎重であってもあり過ぎることはない痛感しています。今日の自然「災害」の激増が証明しているからです。

6) 求められているのは、大局を見ようとする理性。

科学的に何が正しいのか、多くの人びとの利害にかなう方策は何なのか。

出来る限り自分だけの利から離れてじっくり語り合うことができれば、立場や意見の違いがあったとしても、やがては止揚できるのかもしれません。しかし、それはなかなか難しいのが現状です。だとしたら、明確な解が出るまで動かない、動かさないのが知恵者の採る道であろうと信じます。

私たちは相生山緑地の中で、月に1回程度ですが15年間にわたって自然に包まれ人と語り合ってきました。小学2年生以下をのぞく延べ参加者総数は5,500人を超えていました。最初のうちは地元の方の比率は少なかったです。最近は逆転してきました。相生山緑地について、道路についての思いも聞こえてきたりしますが、名古屋市のホームページや「意見交換会」の記録や「要望書」「意見書」では知ることのできない、市民の声と地元の複雑な思いを知ることができます。

どうぞ「使命感」や逸る気持ちを客観的に抑えて、長期に見た市民の理と利にかなうお仕事を全うしていただきたいと、こころから切に願っております。

以上